

## ●心落ち着く香り堪能

薬草公園は「宮崎県総合農業試験場薬草・地域作物センター」のこと。野尻町役場から二キロほど小林市寄りの国道268号沿いにあり、二〇〇一（平成十三）年十一月、小林高校野尻分校（平成五年閉校）跡に開設された。

薬草、ハーブなど地域作物を活用した「地域農業の振興」と「食と健康の情報発信」を目的に、植物の栽培・加工技術の試験研究と成果を紹介、利用法や需要創出に関する情報を提供している。

こうした狙いから、管理研修棟では薬草、ハーブの利用法に関する研究会、栽培や調理、加工についての研修会、講習会を開く一方、図書の閲覧、標本などを積極的に展示している。

薬草園には、民間薬や漢方薬に用いられる薬草、ハーブ園には薬用、食用など各種のハーブを展示。さらに展示冷温室では、亜熱帯から寒

冷地にかけて分布する多彩な薬草、ハーブを栽培している。

冷室には寒冷地や高山の薬草やハーブが展示され、大・中の温室では乾燥地帯、亜熱帯の薬草、ハーブ、また別の温室では研究対象になっている植物や香りなどに特徴のある植物が観賞できる。

毎月イベントも実施されている。定期的にハーブ料理教室、薬ぜん教室、ハーブ生活教室。そして毎週日曜日に薬草見学会が開かれ、薬草の効能や利用法、栽培法について職員がていねいに説明、参加者にも好評。

センターは四項目の基本目標を掲げ、「新みやざきブランド」の確立を目指す。それは①健康素材としての薬草などの栽培技術の開発②地域作物を活用した新品目の育成③山野草の園芸化技術の確立④薬草・ハーブの加工・利用技術の

開発。

薬草公園に隣接するのが「ゆるぽるのじり」。第三セクターの宿泊施設として〇一（平成十三）年四月、オープンした。この目玉は近くの遊園地「のじりこびあ」のバラ園で大切に育てられたバラを湯船いっぱいに浮かべたバラ湯。香りもたおやかで、入浴者を優雅な気分誘う。発汗や新陳代謝を促し、心を落ち着かせてくれるハーブ湯やサウナもある。植物の有効成分を十分に利用した入浴施設として評価も上々という。

漢方の五味五行の知恵を生かした薬ぜん料理を出すレストランもあり、特産のメロンや新鮮な野山の幸を提供する売店とともに人気。町でも新しい観光スポットとして売り込みに自信をみせている。

首藤光幸



薬草・地域作物センター。ハーブ園もあり、一般に開放している